

試練を迎えるシンガポールのコロナ政策

※当資料は「アジアリサーチセンター」のレポートを基に作成しています。

「シンガポールのコロナ感染状況は？」

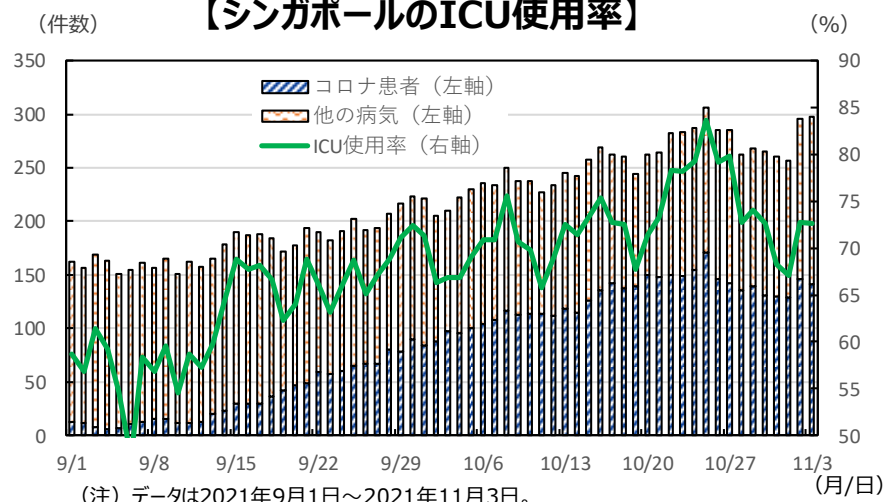
→ワクチン接種率が80%を超えても重症患者が増加。

「ワクチン接種率が進んでも重症患者が増加」

- シンガポールではワクチン接種がアジア域内では先行しており、10月31日時点で2回のワクチン接種率は80%に達しています。高いワクチン接種率は多くの人々が抗体を持っていることを意味しますので、社会全体では重症化が避けられ、その結果、医療崩壊のリスクはほとんどなくなるはずですが、そのため、シンガポール政府はウィズコロナ政策へ舵を切りました。
- しかし、シンガポールでは、9月下旬以降、コロナ感染患者によるICU（集中治療室）使用数が増加しました。ICU使用数のうちコロナ感染と他の病気を比較すると、9月1日には13対149であったものが、10月31日には130対131へと変化し、ICU使用のうち半分をコロナ患者が占めるようになりました。また、コロナ感染に伴う死者数も10月に入り、10人を超えるようになり、10月28日には19人と、過去の一桁から急増しました。シンガポールの人口は約550万人なので、日本の人口規模に換算すると、10月28日の死者数は400人超に相当します。10月下旬にICU使用率が低下した理由は、実際のICU使用数がやや減少したことに加えて、政府の指示によってICUが追加されたためです。政府は10月下旬、ICUを100床追加する意向を示し、10月25日にはICUの空室は60床でしたが（総数は366床）、31日には空室が121床へとほぼ倍増しました。こうした迅速な措置はシンガポールのように政府が強い指導力を持っていることに加えて経済規模が小さいため可能であった例外的な措置といえるでしょう。それでも、11月1～3日には、ICU使用数は、コロナ患者でもその他の病気でも増加し、ICU使用率は再び73%へ上昇しており、予断を許しません。

図表でチェック！

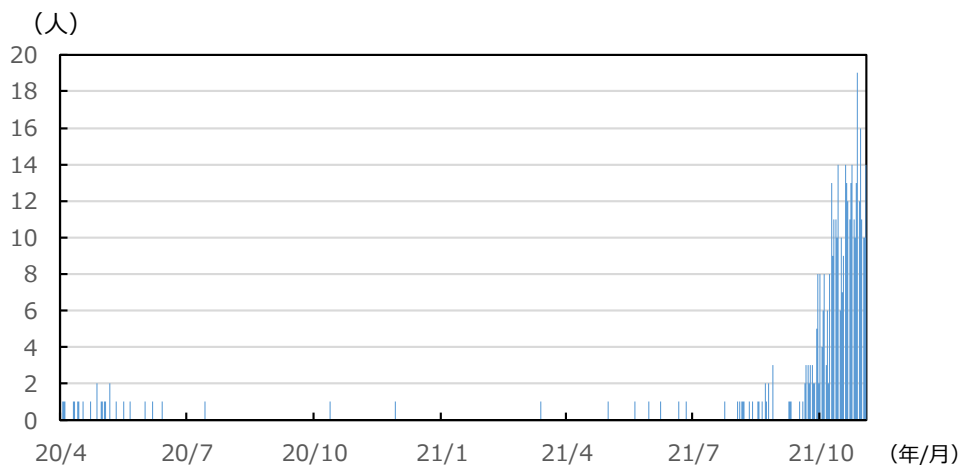
【シンガポールのICU使用率】



(注) データは2021年9月1日～2021年11月3日。

(出所) シンガポール保健省のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【シンガポールのコロナ感染死者数】



(注) データは2020年4月1日～2021年11月3日。

(出所) WIND、シンガポール保健省のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

「シンガポールの今後のウィズコロナ政策は？」

→ブースターを含めたワクチン接種進展や治療薬が必要。

ポイント：「ワクチン接種の進展、ブースター接種、治療薬が必要」

- シンガポール政府の直近の統計によると、コロナ重症患者数および死者数の内訳を見ると、2回ワクチン接種を終わっていない人の数は、終わった人の約10倍です。つまり、**2回のワクチン接種は必要条件**と言えるでしょう。シンガポールでは2回ワクチンを打っていない人の人口比は約20%ですから、人口数では約110万人です。人口数で見ると、110万人は少なくない数ですし、この中から感染者が出ると、重症化または死に至る可能性が高くなります。
- 一方、シンガポールは早い段階でワクチン接種を進めてきました。まだ確実な結論はないものの、時間の経過と共にワクチンによって作成された抗体が消滅する可能性もあります。国全体で抗体を維持するためには、**3回目以降のワクチン接種（ブースター接種）を推進する必要があるといえますし、最終的には治療薬が広く行きわたることが、ウィズコロナ政策では十分条件**といえるでしょう。

「シンガポールのウィズコロナ政策の他国への影響は？」

→コロナ感染が再び世界に拡散するか、注意深く見守る必要。

ポイント：「他国への感染拡大に留意」

- シンガポール政府はワクチン接種の進展と共に、ウィズコロナ政策の象徴ともいえる、隔離無しの海外からの受け入れ措置を始めています。9月8日以降にはドイツとブルネイ、10月19日以降にはカナダ、デンマーク、フランス、イタリア、オランダ、スペイン、イギリス、アメリカの8カ国から受け入れを始めています。相互互恵の視点から、これら10カ国の政府は、シンガポールからの訪問に対しても、同様に隔離無しの受け入れを行う約束をしています。
- シンガポールではワクチン接種率が高かったにもかかわらず、突然感染が拡大し、重症患者・死者も増えたことから、今後、相互往来を行っている10カ国でも同様のことが起きるかもしれませんし、シンガポールからの往訪が感染拡大の契機になるのかもしれない。更に、近隣のタイ政府は11月1日、46カ国・地域からの観光客を隔離無しで受け入れる措置を始めました。その相手国には、シンガポールも含まれていますので、シンガポールの感染がタイに拡大し、最終的にタイの相手国の46カ国・地域に拡大する可能性もあります。
- 北半球ではこれから寒い冬に入っていく時期であり、冬季の休暇を熱帯の東南アジアで過ごすことを選択する人は増えそうです。シンガポール、タイが隔離無しの受け入れ措置を行うことで、コロナ感染が再び世界に拡散することがあるかどうか、注意深く見守る必要があります。

【重要な注意事項】

- 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

作成基準日：2021年11月3日

